

羊蹄山 狩野利夫

## Contents

- 「青森新都市病院歯科口腔外科における周術期口腔ケアの取り組み」  
歯科口腔外科医長 藤原 祐輔
- 第3回 医療・健康セミナー
- 施設のご紹介 <ふじた耳鼻咽喉科クリニック>
- 部署紹介 <診療放射線科>
- 下肢静脈瘤治療のご案内
- 青森新都市病院トピックス



## — 青森新都市病院歯科口腔外科における周術期口腔ケアの取り組み —

今年の4月より、青森新都市病院歯科医師として着任いたしました藤原祐輔と申します。

私は、日本大学医学部附属板橋病院口腔外科にて、虫歯の治療から口腔顎顔面外傷の治療に至るまで、様々な手術や歯科治療を含め、数多くの難症例治療を行って参りました。これまで経験してきた口腔外科診療で培った知識と経験をもとに、診断と治療に全力を傾注します。今まで以上に身近な歯科医師として、皆様のお口の健康増進に寄与して参りたいと思います。

当科での治療は、「虫歯や歯周病の予防や治療、義歯などの一般歯科治療」、「抜歯、腫瘍、顎関節症、外傷、炎症、口内炎などの口腔外科治療」、「周術期口腔ケア」、「摂食嚥下機能療法」を治療の柱としております。今回はこの中で「周術期口腔ケア」について記載させていただきます。

「周術期」とは聞きなれない言葉であると思いますが、簡単に言うと、「手術日を含めた手術前後の時期」を指します。一般的に全身麻酔の手術を受けると身体の抵抗力が落ちやすく、合併症を発症しやすくなると言われています。そこで「なぜ口を気にするのか、口腔（口の中）ケアを行う必要があるか？」ですが、口腔内には実に多くの細菌が存在していて、それが肺や血液の中に入る事で肺炎や感染などの重篤な合併症につながります。全身の治療前から十分な口腔ケアを行い、手術時に口の中がきれいでも術後に口が原因の感染を生じにくい状態にしておくことが大切です。全身麻酔による手術では、口か

ら気管チューブを挿入します。口腔内には1gの歯垢に1億という非常に多くの細菌があり、気管チューブを挿入することで口腔内の細菌を肺に押し込んでしまうことで肺炎や気管支炎といったリスクが生じます。また、動揺している歯がチューブなどに当たり、飲み込んでしまったり気管内に入ってしまう可能性があります。また手術だけでなく、がん治療を受ける患者さんは抗がん剤や放射線治療にも適応があります。抗がん剤治療では40%の患者さんに口内炎や味覚異常などの口のトラブルが生じるとされています。口内炎は使用する抗がん剤の種類や組み合わせによって発生のしやすさが変わります。口腔内の清掃が十分でない場合に口内炎が悪化しやすく、口から栄養を十分に摂取することが難しくなり、ひどい場合には全身の治療方法の変更をせざるを得なくなる場合があります。これらの治療中は免疫力が低下し、健康時にはかかりにくい細菌感染や口内炎が生じ口の状態が悪くなりやすいため、この時期にも口腔機能管理を行うことが重要です。

治療による副作用を減らすために、歯科医師・歯科衛生士による口腔内の定期的な評価・治療と専門的な清掃が必要です。周術期口腔機能管理を行うことで、肺炎・重症感染症などの合併症の予防や入院日数の短縮などの効果が期待されます。

青森新都市病院 歯科口腔外科医長 藤原 祐輔



## 第3回医療・健康セミナー

11月14日に第3回医療・健康セミナーが、リハビリテーション科の鄭健錫先生による「脳損傷後の自動車運転再開へのリハビリ」というテーマで開催されました。

現代社会では車の運転は欠かせないものとなっています。病気やけがで障害が生じた方の自動車運転再開までの流れや、障害による事故率の差、認知症の方の運転等に関してわかりやすく解説して頂きました。

免許を持っている方が脳卒中や脳外傷等により、脳機能や身体機能に後遺症が残った場合、運転の再開に際して、免許センターで相談を行うことになるのですが、その際に医師の医学的な判断や診断書の提出を求められます。次に脳損傷者であれば「瞬間視検査」等の臨時適性検査を受け、運転再開の可否が判断されます。なお、運動機能に問題がある人で条件付き適格者となった場合は、条件に応じた車両の改造等を行い、実車による運転評価を経て運転再開となるということでした。

病態によって周囲の認知機能の落ち方が異なるため、事故の特性や事故率に違いがあり、そのため身体機能や高次機能を評価する検査、自動車シミュレーターによる運転操作能力検査等いろいろな評価方法やリハビリがあ

るということでした。

最後に、高齢者の運転について、運転中に目的地を忘れる、センターラインをはみ出す等がよく見られれば注意が必要で、教習所で認知機能の適性検査を受けた方が良いでしょう。なお、第三者がドライブレコーダー

の映像を見て判断することも有効とのことでした。また、運転再開時の具体的な指導として、同乗者と一緒に出掛ける、1時間を越えない範囲での運転を心掛ける、不慣れな道は避ける、夜間、天候不順の運転も避けるなどの注意事項と、高齢者の交通事故が増えていることもあり、免許証の自主返納が青森でも増えてきているということでした。



次回の医療・健康セミナーは

**1月23日(木)16:00～17:00**

消化器外科 原豊先生による

**「胃がんの治療」～現状と展望～**

を開催いたします。多数のご参加お待ちしております。

## 施設のご紹介 — ふじた耳鼻咽喉科クリニック —

こんにちは。ふじた耳鼻咽喉科クリニックと申します。油川中学校の向いに開業したのは平成14年（2002年）5月ですので今年で18年目になります。

耳鼻咽喉科はめまいや難聴、中耳炎などの耳疾患、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎、鼻出血など鼻疾患から頭頸部腫瘍まで幅広い範囲の疾患をカバーしています。首から上で頭、眼、歯以外は耳鼻咽喉科の担当とさせていただいていいかと存じます。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚異常も扱っていますの

のでおかしなと思ったら早めの受診をお勧めします。また、補聴器相談医として補聴器の装用に関する相談も承っています。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



### ふじた耳鼻咽喉科クリニック院長 藤田 猛志

〒038-0058 青森県青森市羽白字沢田 49-1

電話 017(763)3387 / FAX 017(763)3388

【診療日】月・火・水・金・土

【休診日】木・日

【診療時間】9:00-12:00 / 14:00-18:15

【備考】土曜日午後 13:00 ~ 16:00

## 部署のご紹介 — 診療放射線科 —

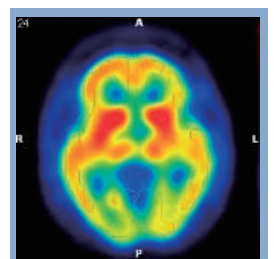
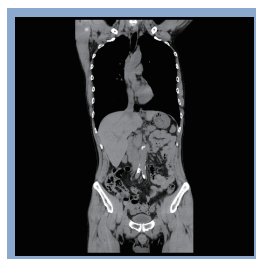
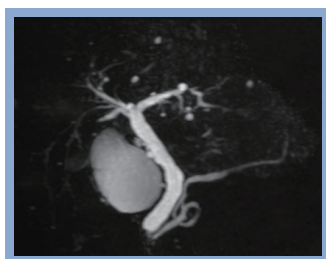
はじめまして、診療放射線科です。診療支援部門である当科は、診療放射線技師7名と事務員1名が在籍しています。（2019年11月現在）

診療放射線技師は、患者さんの協力を得ながら、放射線被ばくを始めとする安全性に十分注意を払って撮影と作成を行います。装置はMRI2台（1.5T/3.0T）、64列CT、DSA、核医学、一般撮影、X線TV、骨密度、マンモグラフィー、超音波、ワークステーションなどを導入しております。これらの装置をし

っかりと使いこなすために、日々技術と知識の向上に努め、認定資格なども積極的に取得して、専門技師として日々努力しております。また、全ては「患者さんのために」をモットーに、迅速に的確な検査を施行できるように、ハード、ソフト面双方から、地域医療に貢献していきたいと思います。

#### ▼主な認定資格▼

第1種放射線取扱主任者 / マンモグラフィー認定技師 / MRI 専門技術者 / 核医学専門技師 / X線CT 専門技師



## 下肢静脈瘤治療

足にボコボコと**浮き出た血管**はありませんか？それは**下肢静脈瘤**かもしれません。主な症状は脚のだるさとむくみです。妊娠や出産を経験した女性、長時間の立ち仕事（調理師、美容師など）、重いものを運ぶ作業の方に多く発症します。当院では静脈瘤に対して**局所麻酔でレーザー治療**を行っています。是非、ご相談ください。



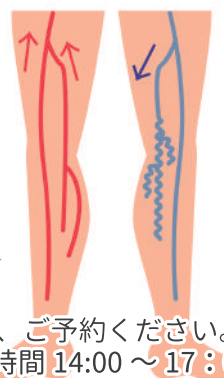
担当医師：小西 宏明 先生

外来診療：第2・3・4週の木曜日

※詳細日程については外来担当医表をご確認ください。

### 【事前予約制】

こちらの電話番号へお問い合わせの上、ご予約ください。  
TEL 017-757-8750（代表） 予約受付時間 14:00 ~ 17:00



## 着任医師のご紹介

### 形成外科

	月	火	水	木	金
午 前	中島 龍夫	岩崎 大輔	岩崎 大輔	岩崎 大輔	林 翔平



**林 翔平** (はやし しょうへい)  
青森新都市病院 形成外科医員

この度、北海道大学病院より赴任した林翔平と申します。形成外科は人の見た目に関わる科だからこそ、治療そのものに加えて、治療方針について患者さんに十分理解していただける様に、丁寧な説明を心がけて参ります。

10月  
着任

### 脳神経内科

	月	火	水	木	金
午 前	布村 仁一	布村 仁一	布村 仁一	—	布村 仁一
午 後	—	布村 仁一	布村 仁一	—	—



**布村 仁一** (ぬのむら じんいち)  
青森新都市病院 脳神経内科部長

みなさんこんにちは。脳神経内科を担当します布村と申します。扱う範囲は頭痛、めまい、しびれから脳卒中、認知症、さらに ALS 等の神経難病になります。性格は、前任地では赤鬼と呼ばれ…。  
よろしくお願いたします。

11月  
着任

### おくすりの豆知識

#### 「お薬手帳」活用のすゝめ

皆さん、『お薬手帳をお持ちですか?』と薬局で聞かれた経験はありませんか?

「お薬手帳」とは、自分が使っている薬の名前や量、使用方法、薬をもらった日(処方日)などを記録できる手帳のことです。いつ・どこで・何をもらったか、自分のお薬の履歴が一目瞭然で分かる便利なアイテムです。副作用歴、アレルギーの有無、過去にかかった病気、ご自宅での体調の変化なども自由に記入できます。

医師が薬を処方するときに、お薬手帳に記載された服用歴や副作用歴、過去にかかった病気の情報を確認することで、飲み合わせや副作用のリスクを下げることができます。また、旅先で体調不良になったときや災害に遭ったときに、自分の使用している薬の正しい情報を医療機関に提供できるため、普段から携帯することをお勧めします。

複数の医療機関を受診してる場合や、薬の数が多くて何を飲んでいるか覚えられない場合もあるかと思います。お薬手帳は、自分だけではなくご家族や介護をしてくれる方でも薬の管理ができるので、是非お薬手帳は1冊にまとめて、病院や薬局に行かれる際は、毎回私たち医療スタッフにお渡しください。



### 健康教室

11月27日に第4回健康教室を開催しました。今回は「食べる」の教室ということで摂食嚥下障害について学びました。

加齢と共に、飲み込み機能や唾液分泌機能が低下し、むせる、のど詰まり、咀嚼物が気管に入る(誤嚥)等を摂食嚥下障害といいます。摂食嚥下は肺炎、低栄養、脱水など様々な深刻な症状を引き起こし、食べる楽しみを失うなど QOL(生活の質)の低下をもたらす重要な問題です。今回は摂食嚥下障害の自己チェック方法や予防法について詳しく説明がありました。

次回 1月29日(水)  
『「体力」の教室』  
是非、ご参加ください。  
※予約制



### 編集後記

新年を迎え、多忙に過ごされている方も多いかと思います。そんな時、気をつけたいのが風邪・インフルエンザ。対策として、基本的な事になりますが、手洗い・うがいを行う。栄養のあるものを食べ、休養をとりましょう。参考までに栄養のある食べ物として、(にんじん、ゆず、ブリ、鳥ささみ、生姜)がいいようです。この5つの食材が入った「味噌しゃぶ鍋」がおすすりです。これから寒い日が続きますが、体調管理には十分気を付けてください。

最後に、今年は2020年東京オリンピックがあります。昨年のラグビーW杯に続き、日本中が盛り上がる事かと思ひます。皆さんで選手を応援し、熱狂しましょう。(R・I)